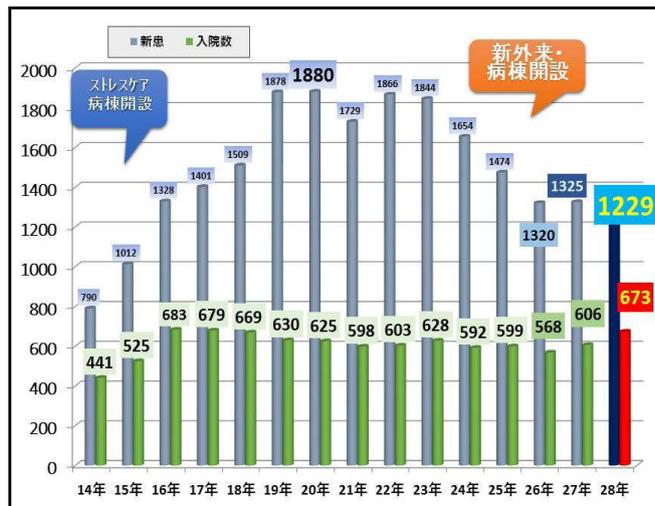


新患統計

1 年度別新規患者数・入院者数

平成 28 年度の新規患者数は 1229 人で、平成 27 年の 1325 人、平成 26 年の 1320 人、平成 25 年の 1474 人、平成 24 年の 1654 人と比べて減少している。平成 26 年 6 月から新患は予約制していることも理由に挙げられる。平成 26 年 5 月からは新棟が完成し新外来での診察が開始された。ホビー待合室もゆったりとなり、コンシェルジュの活躍で診察室までの誘導もスムーズになった。



2 月別初診・新規患者数

初診患者が多いのは7月である。例年、年金の現況届けのための受診が多いためである。新規患者数（当院に初めての受診者）は毎月 100 名前後である。年間 1200 人～1400 人くらいになる。外来医師のコマ数の問題もあり、平成 26 年度から新規患者さんの受診は予約制としているため、新規患者数は横ばいである。予診は研修医、心理士、精神保健福祉士、まれに外来看護師がとっている。年金や障害支援区分などの書類関係は PSW が入力できる内容はエクセルファイルに入力してもらい、医師の記入の労力を省くような効率化を目指している。



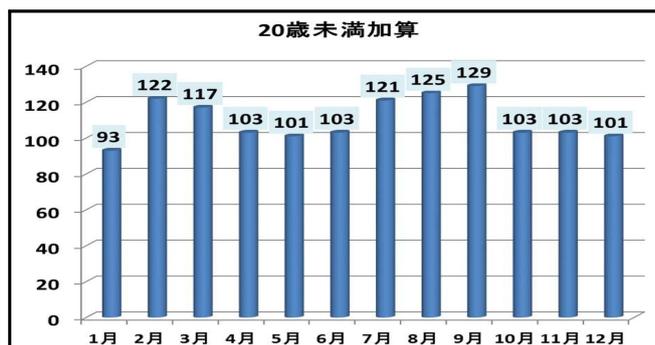
3 月別延患者数、実人数、時間外受診者数

1 日あたりの外来者数は約 157 人である。月別では 3 月、7 月、8 月が多い。時間外受診者数は 191 人であった。いわゆるスーパー救急病棟算定では年間 200 人以上が基準となっているが、それに近い数字である。当院では、テレサポートとって通院中に患者さんの心配事に対して時間外でも電話相談をしているが、その効果もあり時間外受診を未然に防いでいる。必要な時間外受診は何時でも診療するが、予防医学も大事である。実人数は 2500 弱～2600 強である。



4 20歳未満加算数

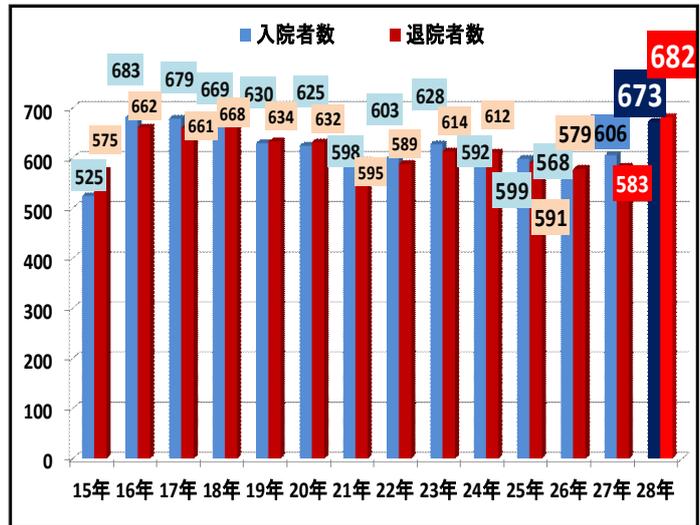
平成 28 年度は 1321 件で、27 年度の 1117 件、平成 26 年度の 1181 件よりも増えている。平成 27 年 11 月から札幌市で児童思春期のコンシェルジュ事業がはじまった。札幌市内では 5ヶ所の医療機関が窓口となった。当院は札幌市東区・北区を担当することになったので、その影響もあるかもしれない。



入院患者統計

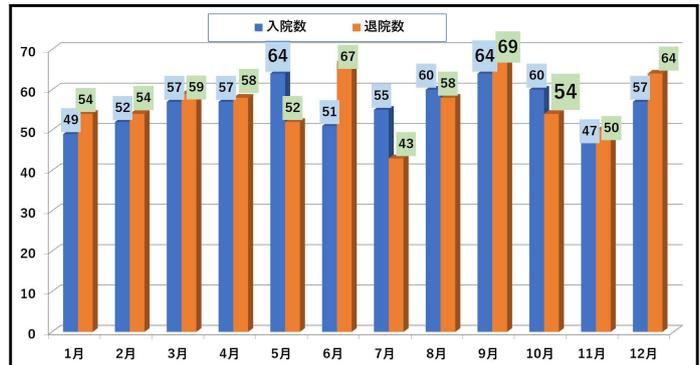
1 年度別入院者・退院者数

平成 11 年～ 14 年までは入院退院者数は 400 人台で推移していた。ストレス病棟がオープンした平成 15 年に 500 人を越えた。平成 16 年度の急性期病棟運用時から入院退院ともに 600 人台であった。平成 26 年の入院は 568 人と最も少なかったが、平成 27 年度は 606 人、平成 28 年度は 673 人と大幅に増えた。それに伴い退院者数も 682 人と、これまでの最多数を更新した。病棟の運用が上手くいっているのだろう。



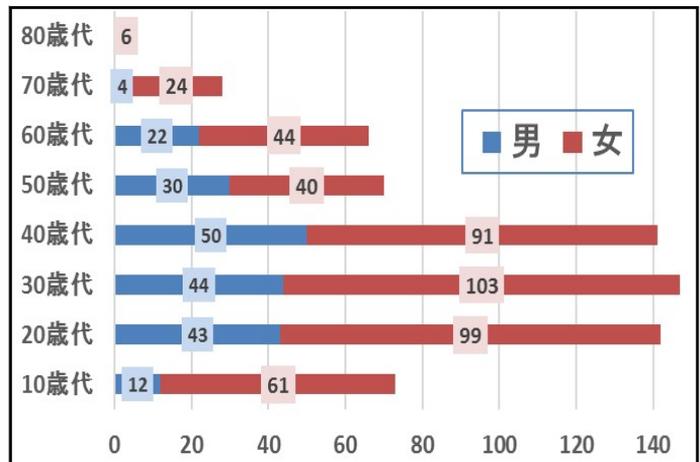
2 月別入院者・退院者数

月別の入院者で最も多いのは 5 月、9 月、8 月、10 月であった。少ない月は、1 月、2 月、6 月、11 月である。年度による違いはないようである。退院は 9 月が最多で 69 人、6 月も 67 人、12 月は 64 人と多かった。退院は月末に集中することがあり、病院運営とのバランスを考慮する必要がある。



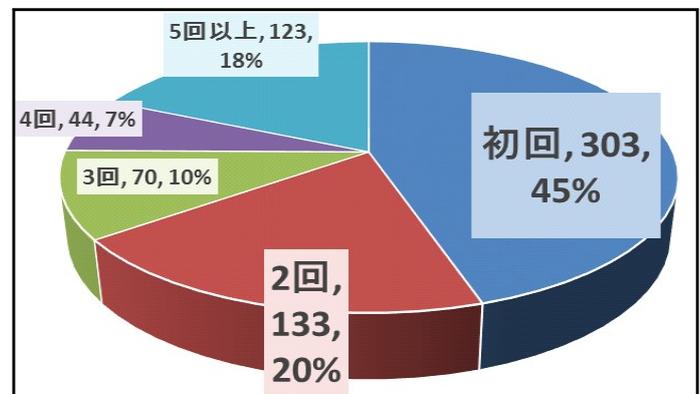
3 性別・年齢別入院者数

性別では前年同様に女性が多く 7 割近くを占める。入院者の年齢は 11 歳から 82 歳までで平均年齢は 38.7 歳と前年の 40.2 歳に比べて若くなっている。年齢層は 20 代、30 代、40 代が多く、2 割を超えている。10 代～ 30 代では女性の比率が高い。特に 10 代は 8 割が女性である。10～ 40 歳代で 3/4 を占める。10 歳代は 74 人 (11.0 %) と 1 割である。50 代、60 代は 1 割ずつ、70 歳以上は 34 人 (5.1%)、80 歳以上は 6 人しか入院していない。



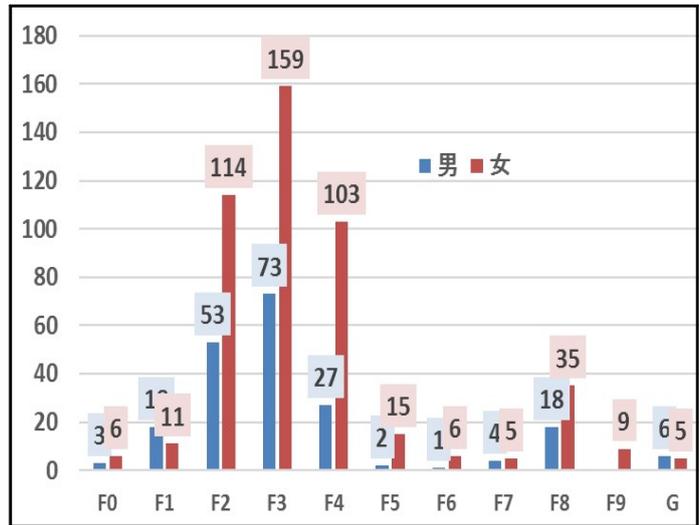
4 入院回数

初回入院が 303 人 (45.0 %) である。2 回目が 133 人 (19.8%)、3 回目が 70 人 (10.4%) であった。5 回以上の入院者は 123 人 (18.3%)。新規入院 (精神科入院歴が 3 ヶ月以内でない) は 577 人 (85.7 %) と、前年の 92.4% よりも低下している。で殆どは新規での入院となっており、再入院が多くなっている。



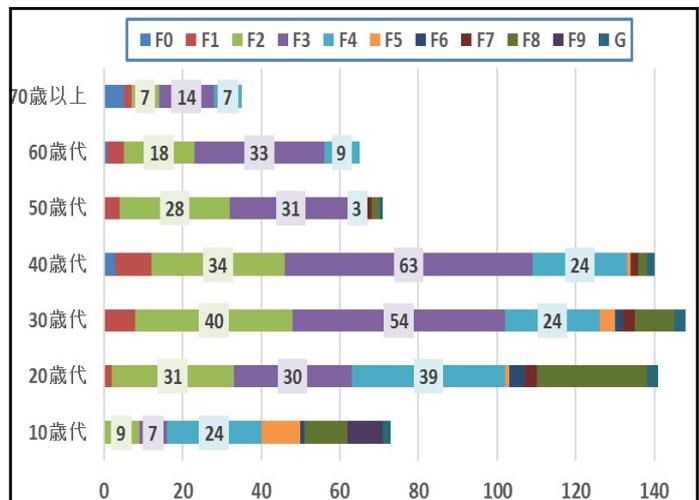
5 入院時診断

最も多いのは F3（気分障害）で 232 人（34.5%）と 3 割以上を占める。次いで F2（統合失調症圏）が 167 人（24.8%）と 1/4 である。F4（神経症圏）は 130 人で 2 割弱である。F6（パーソナリティ障害）は 7 人（1.0%）と少なくなっている。以前はボーダーラインの患者さんが病棟をかき乱すこともあったが、減っている。F8（発達障害圏）が 53 人（7.9%）と前年の 33 人、前々年の 19 人より大幅な増加である。他 F1（アルコール依存症）は 29 人（4.3%）と前年度並、摂食障害等の F5（生理的障害）は 17 人（2.5%）と半減している、ここには睡眠障害も含まれる。



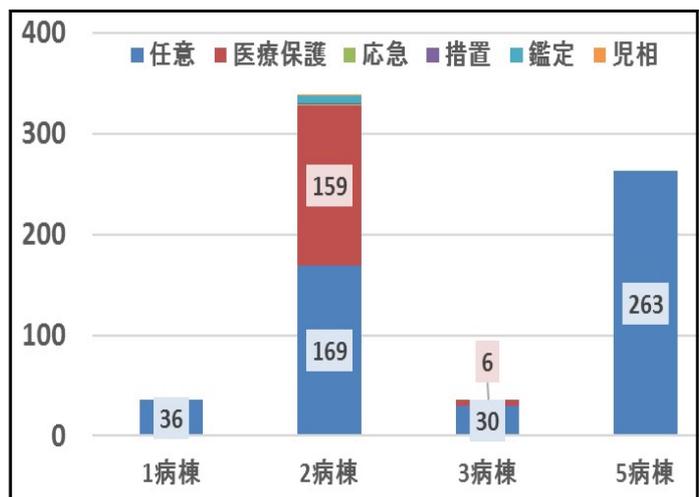
6 年代別診断分布

年代別の診断名の分布を示す。20 歳代から 60 歳代にわたって F3（気分障害）が多い。最も多いのは 40 歳代の F3 で 63 人、次いで 30 歳代の F3 の 54 人である。F2（統合失調症圏）は 30 歳代が 40 人と最多を占める。F4（神経症圏）は 10 歳代～40 歳代まで多い。30 歳代、40 歳代は F3、F2、F4 の比率が高い。F1（アルコール依存症）は 30-60 歳代まで幅広い。F8（発達障害）は、10、20 代、30 代が多い。



7 入院形態・入院病棟

任意入院が 498 人（74.0%）の 4 分の 3 で、医療保護入院は 165 人（24.5%）と 4 分の 1 であった。精神科医療の基本は本人自らの希望での入院である。なるべくは本人の希望での入院が望ましい。応急入院、措置入院はそれぞれ 1 人。札幌市の措置入院の適応の厳しさが感じられる。鑑定入院は 7 人と前年の 9 人と横ばいであった。入院病棟は 2 病棟が 338 人（50.2%）、5 病棟が 263 人（39.1%）であった。5 病棟は 2 病棟からの受入れも多い。療養の 1 病棟、3 病棟ともに 36 人を受け入れた。再入院によるものである。



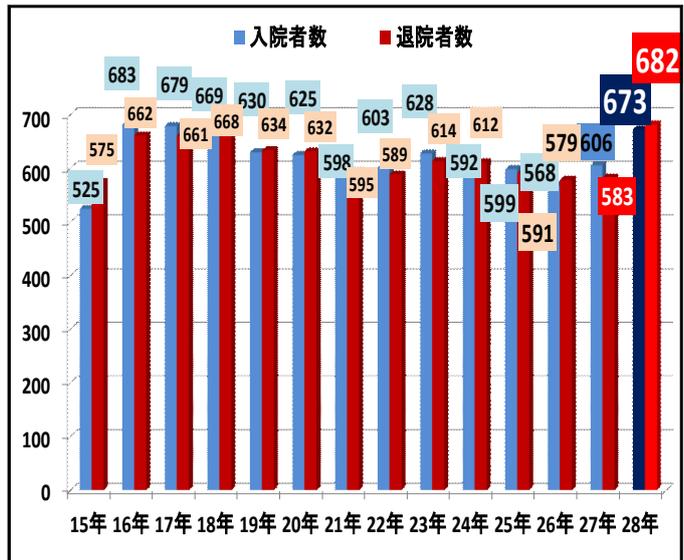
8 紹介元病院・クリニック(敬称略)

673 人の入院のうち 370 人（55.0%）が紹介患者である。平成 26 年、27 年度とともに、こころメンタルクリニックが 14 人、18 人と最多であったが、平成 28 年度も 20 人と最も多い。次いで、勤医協中央病院、なかまの杜クリニック、ストレスアすすきのクリニック、三浦メンタルクリニック、さっぽろ麻生メンタルクリニック、札幌医大である。連携しているクリニックのサポロファクトリーメンタルクリニック、さっぽろ元町メンタルクリニック、南平岸内科クリニックも多い。精神科クリニックからの紹介が多く、病病・病診連携をはかるためにも紹介患者は可能な限り受入ることになっている。退院後は紹介元のクリニックに戻るようになっている。

退院患者統計

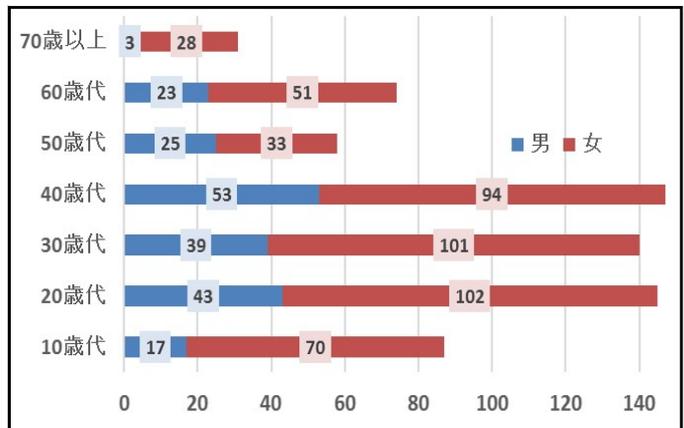
1 年度別退院患者数

年度別の退院者数はここ数年は 600 人前後であったが、平成 28 年度は 682 人と前年度の 583 に比べて 100 人近くの増加であった。平成 16 年度の 683 人に並ぶ数字である。これは入院者数が増加しているからであるが、入院者が増加した要因は何だろうか。当院では、長期入院者の退院支援も積極的に行っている。退院後に、早期の再入院にならないように、必要によっては、デイケア通所や訪問看護を取り入れている。また、治療契約を結んでいる患者（通院中の患者）には電話サポート体制を整えている。



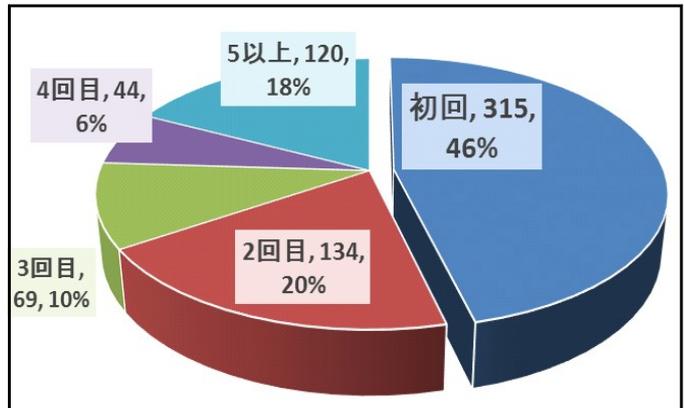
2 年齢・年代別・性別退院患者数

年齢は 11 歳～ 82 歳、平均年齢 39.0 歳であり、年齢層は昨年よりも若干年齢がさがった。年代別では 20 歳代～ 40 歳代が多く、この年代で 6 割を占める。10 歳代は 87 人(12.8%) と前年の 62 人(10.5%)よりも多い。70 歳以上は 31 人 (4.5%) と昨年と同様である。性別では女性が 2/3 を占める。年代別では 10 歳～ 30 歳代での女性比率が高い。特に 10 代は 8 割が女性である。



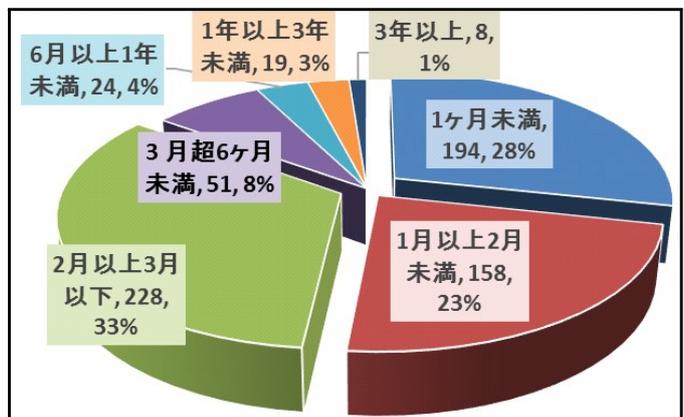
3 入院回数

1～25 回、平均入院回数 2.9 回である。初回入院者は 315 人 (46.2%) である。再入院のうち、2 回が 134 人 (19.6%) であった。3 回が 69 人 (10.1%)、5 回以上は 120 人(17.6%)。10 回以上の入院者は 30 人(4.4%) であった。20 回以上の入院者は 4 人 (重複含む) であるが、実人数は 2 人で診断名は統合失調症、双極性感情障害である。



4 入院期間

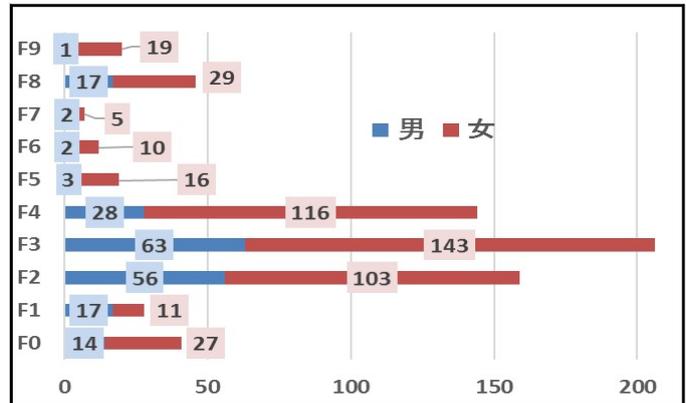
1～14,389 日、平均 121.4 日である。期間別では 1 ヶ月未満が 194 人 (28.4%)、1 ヶ月以上 2 ヶ月未満が 158 人 (23.2%)、2 ヶ月以上 3 ヶ月未満が 228 人 (33.4%) であった。3 ヶ月未満の退院が 85.0%、6 ヶ月未満が 9 割、1 年未満が 96.0% である。3 年以上は 8 人であった。3 年以上の内訳を示す。



年代	性	入院期間	回数	F分類	入棟	退棟	転院	病院名
70歳代	女	4430	3	2	3病棟	1病棟	入院	東徳洲会病院
40歳代	女	2672	1	2	2病棟	1病棟	外来	トロイカ病院
50歳代	男	4239	1	2	3病棟	3病棟	入院	禎心会病院
60歳代	男	1989	4	3	2病棟	1病棟	入院	東徳洲会病院
60歳代	女	1095	2	2	2病棟	3病棟	入院	勤医協中央病院
40歳代	女	1357	2	2	2病棟	1病棟	無	当院外来
70歳代	女	14389	1	2	2病棟	3病棟	入院	勤医協中央病院
70歳代	女	1142	6	0	1病棟	3病棟	入院	札幌佐藤病院

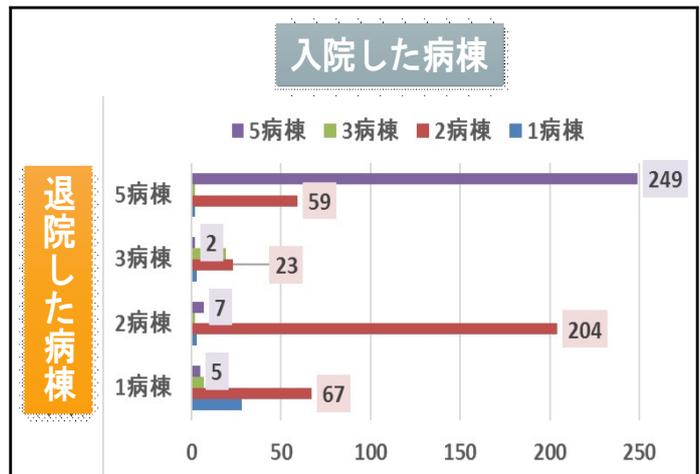
5 退院時診断

F3（気分障害）が最多で206人（30.2%）である。これは前年度と同様である。次いでF2（統合失調症圏）が159人（23.3%）、F4（神経症圏）は144人（21.1%）であった。F1（アルコール依存症等）は28人（4.1%）、F6（パーソナリティ障害）12人（1.8%）と少ない。F5（摂食障害等）は19人（2.8%）と横ばいである。F0（認知症・器質性）は41人（6.0%）である。F8（発達障害）は46人（6.7%）と増えている。



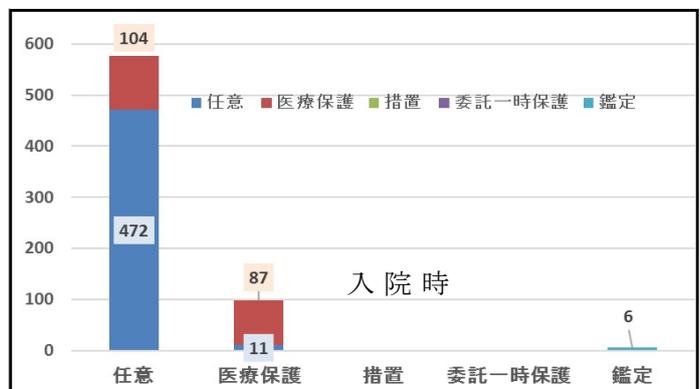
6 入院および退院した病棟

312人（45.7%）と半数は5病棟からの退院である。2病棟入院後に5病棟に転棟して退院したのは59人であった。急性期はまずは2病棟に入院し、安定してさらなる治療セッションがあれば5病棟、1病棟の開放病棟転に転棟している。2病棟からの退院は216人（31.7%）で、1病棟からも93人（15.7%）が退院している。1病棟からの退院者も107人（15.7%）と多いが、67人が2病棟入院、5人が5病棟入院後に1病棟からの退院である。3病棟からは47人（6.9%）の退院であった。



7 退院者の入院時および退院時の入院形態

入院時の入院形態は任意入院が483人（70.8%）を占め、191人（28.0%）が医療保護入院である。退院時に医療保護入院は98人（14.4%）。医療保護入院での入院者の半数以上（54.5%）が任意で退院している。措置入院者は1名のみ。鑑定入院は6人、児童相談所からの一時保護委託が1名あった。精神保健福祉法の入院手続きが必要であるとの意見もある。



8 転帰

軽快退院が9割を占める。殆どが改善して退院している。不変が56人（8.2%）、治療中断例が14人（2.1%）であった。退院後に外来に繋がるのは547人と8割を占める。

退院状態	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	総計	%
軽快	97	186	38	291	612	89.7%
不変	6	25	5	20	56	8.2%
治療中断	4	5	4	1	14	2.1%
総計	107	216	47	312	682	100.0%

退院時満足度調査

平成 28 年度

1 対象

平成 28 年 1 月～ 12 月までの退院者 682 人中、退院時に満足度調査の回答が得られた 465 人(68.2%)を対象に分析を行った。回収率は前年度の 59.2%よりも上がっている。目標は 80%である。2 病棟の回収率が前年度よりも上がっている。急性期の患者が多い割に健闘している。逆に、療養病棟の 1 病棟、3 病棟の数値が低い。もっと上がるはずである。満足度調査の必要性を理解し、信頼性確保のためには回収率を上げる必要がある。

調査票の有無	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	総計
有	72	146	28	219	465
退院数	107	216	47	312	682
%	67.3%	67.6%	59.6%	70.2%	68.2%

調査対象からは認知症、脳器質性疾患、緊急の転院、入院 2 日以内を除く。

対象者の基礎データ 465 人

年齢 11 歳～ 82 歳 平均 38.4 歳

性別 男 = 124(26.7 %)

女 = 341(73.3 %)

入院期間 3～ 789 日 平均 75.0 日

入院回数 1～ 25 回 平均 3.0 回

初回 = 209 (44.9%)、2 回目 = 97 (20.9%)、

3 回目 = 46(9.9%)、4 回目 = 26 (5.6%)

5 回目以上 = 87 (18.7%)

診断別・入院形態

F3 (気分障害圏) が最多の 32.7 % を占める。F2 (統合失調症圏) は 24.9%、F4 (神経症圏) の 20.2% の順である。

入院時の入院形態は 7 割が任意入院で医療保護入院は 3 割弱である。措置入院者が 1 人であった。退院時の退院形態は、任意が 85 % を占めている。

F分類	男	女	総計	%
F0	6	15	21	4.5%
F1	11	10	21	4.5%
F2	38	78	116	24.9%
F3	44	108	152	32.7%
F4	16	78	94	20.2%
F5		7	7	1.5%
F6	1	7	8	1.7%
F7		5	5	1.1%
F8	8	21	29	6.2%
F9		12	12	2.6%
総計	124	341	465	100.0%

入院形態	退院形態				総計	%
	任意	医療保護	措置	一時保護		
任意	324	8			332	71.4%
医療保護	75	56			131	28.2%
措置			1		1	0.2%
一時保護				1	1	0.2%
総計	399	64	1	1	465	100.0%
%	85.8%	13.8%	0.2%	0.2%	100.0%	

2 方法

1. 入院治療についての全体的満足度

CSQ-8J (Client Satisfaction Questionnaire)

2. 入院に際する説明、入院中の治療に対する説明

3. 医師・看護婦などのスタッフに対する評価

4. 入院生活の快適さ

5. 家族の評価 等の調査を行っている。

1	2	3	4
よくない	まあまあ	よい	とてもよい
全くない	そうでもない	だいたい	大いによい
絶対ない	しない	する	絶対する

3 結果

3-1 全体的満足度、スタッフ評価、環境等

次ページ表の数字の%は「良い」「大変良い」の両者を合計したものを表す。「効果的な対処」が最も高く、94.2 % が満足したと回答した。これは前年度と同様である。患者さんのニーズに合わせ、何が困っているのか、その対処法についてのプログラム内容が奏功していると思われる。「7 全体的な満足度」は 82.9% で昨年度よりも若干低下した。8 割を越えたのは、「2 望んだ治療か」「4 推薦するか」である。最も低いのは「必要とした治療か」で 69.0 % である。全体として例年通りである。

スタッフへの評価は、医師が 76.5 %、看護師が 81.8% である一方、他のスタッフ (心理士、作業療法士、PSW) は 87.4 % と評価が高い。事務員の対応の満足度が 74.4 % と低いが、医療費の

CSQ-8J	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
1治療の質	13	105	195	134	329	73.6%	447
2望んだ治療か	8	59	262	115	377	84.9%	444
3必要としたか	14	123	210	95	305	69.0%	442
4推薦するか	12	53	288	80	368	85.0%	433
5時間をかけた援助	12	79	228	123	351	79.4%	442
6効果的な対処	7	18	234	173	407	94.2%	432
7全体の満足	8	67	240	124	364	82.9%	439
8治療に戻るか	23	72	250	87	337	78.0%	432
スタッフ評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
9事務員の対応	10	103	184	145	329	74.4%	442
10看護婦	7	73	151	209	360	81.8%	440
11医師	13	91	162	177	339	76.5%	443
12他のスタッフ	10	45	163	220	383	87.4%	438
説明・環境等	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
13入院の説明	13	46	210	158	368	86.2%	427
14入院中の説明	10	43	196	146	342	86.6%	395
15入院生活の快適さ	39	122	151	90	241	60.0%	402
16a病室の広さ	16	81	251	58	309	76.1%	406
16b廊下幅	6	70	247	82	329	81.2%	405
16cテイルーム	27	91	209	73	282	70.5%	400
16d作業療法室	51	103	199	43	242	61.1%	396
16e壁の色	6	78	261	56	317	79.1%	401
16f緑の多さ	38	156	135	68	203	51.1%	397
16g臭い	25	100	199	79	278	69.0%	403
16h清潔度	8	68	210	115	325	80.8%	402
17医療費	22	111	221	17	238	64.2%	371
家族の評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
21入院説明	6	2	91	203	294	97.4%	302
22入院中の説明	4	33	125	130	255	87.3%	292
23事務員	1	54	169	81	250	82.0%	305
24看護婦	2	32	135	137	272	88.9%	306
25医師	5	40	141	117	258	85.1%	303
26他のスタッフ	0	31	146	113	259	89.3%	290
27医療費	8	71	196	9	205	72.2%	284
28全体の満足	7	20	169	108	277	90.8%	305

事柄が関係しているものと思われる。入院時や入院中の説明には9割近くの方が満足していると回答している。作業療法室の満足度は高いものではない。他の病院に比べて充実していると思うが、患者視線になると違うのかもしれない。病室の広さの満足度は76.1%と以外に高い。清潔度は80.8%で高い。きれいな病院として評価して戴いているものと思われる。

3-2 「全体的満足度」の「とても不満」の回答者

「全体的満足度」で「とても不満」と回答したのは8人、前年度の10人よりも少ない。因みに、平成25年度は9人、平成24年度は16人であった。F分類では気分障害に多い(4人)。医療保護での入院者が3人で任意が5人であった。「とても不満」と回答していても1人を除いて当院に通院している。本人と家族が両方とも不満と答えたのは1人のみである。

また、家族がとても不満と回答したのは7人である。1人は、本人ともに「とても不満」としている。5人は家族がとても不満でも、良い以上である。

患者がとても不満と回答した8人の内訳

年代	性	入院期間	回数	F分類	入棟	退棟	入院形態	退院形態	外来	デイケア	転院	7全体の満足	28全体の満足	CSQ8J
40歳代	女	6	2	2	2病棟	2病棟	任意	任意	有	無	無	1		8
30歳代	男	21	1	3	2病棟	2病棟	医療保護	医療保護	有	無	無	1	3	11
30歳代	女	90	3	6	2病棟	5病棟	医療保護	任意	有	無	無	1		10
30歳代	女	64	2	3	5病棟	1病棟	任意	任意	有	無	無	1		12
20歳代	女	26	2	7	2病棟	2病棟	任意	任意	有	無	無	1	3	17
30歳代	女	4	1	7	2病棟	2病棟	任意	任意	有	無	無	1	4	22
20歳代	男	24	1	3	2病棟	2病棟	医療保護	医療保護	無	無		1	1	8
40歳代	女	24	3	3	1病棟	1病棟	任意	任意	有	無	無	1	3	9

家族がとても不満と回答した7人の内訳

年代	性	入院期間	回数	F分類	入棟	退棟	入院形態	退院形態	外来	デイケア	転院	7全体の満足	28全体の満足	CSQ8J
30歳代	女	87	11	3	2病棟	1病棟	医療保護	任意	有	有	無	2	1	17
20歳代	女	74	1	4	5病棟	5病棟	任意	任意	無	無	外来	3	1	23
60歳代	女	53	1	2	2病棟	2病棟	医療保護	医療保護	有	無	無	3	1	23
20歳代	男	24	1	3	2病棟	2病棟	医療保護	医療保護	無	無	外来	1	1	8
20歳代	女	90	1	4	5病棟	5病棟	任意	任意	有	無	無	4	1	30
70歳代	女	14	1	4	2病棟	2病棟	任意	任意	有	無	無	4	1	28
20歳代	女	88	3	4	5病棟	5病棟	任意	任意	有	無	無	4	1	29

満足度調査の目的

1. 顧客の声を正確に把握する

患者に直接聞くことで本当の満足度調査ができ、ニーズにあった調査票を作成することにより定量データもとることができる。

2. サービスレベル向上策の実施

患者の声の中で最も評価された点、課題だと思われる点を優先順位を緊急度、重要度を加味して整理する。その上で「すぐできる対策」「中長期にわたって実施すること」を決めて実施する。

3. 新たなニーズ、サービスの発掘

患者の声から新たなニーズを発見することも可能である。日々のサポートに追われ気がつかなかったニーズやサービスの芽を発見できる。

「満足度調査」は患者さんから「どのような評価を受けているか」という現状把握をし、患者さんの視点に立って、「院内改善活動に取り組むための問題点および課題」を明確化し、改善点を浮き彫りにすることが出来ます。

臨床治験について

治験とは国から薬として承認を受けるために行う臨床試験のことです。

治験では、新しく開発された薬の人での有効性(効き目)や安全性(副作用)などを確認します。現在、世界中で数多くの薬が使われていますが未だに有効な治療薬がない病気も多くあります。これらの病気に対しては効果のある新しい薬の開発が必要です。そのため世界中で新しい医薬品の開発を目指して治験が行われています。当院では積極的に治験に取り組み、新たな薬剤開発に協力しています。

治験審査委員会(IRB)は毎月開催し、治験内容について審議しています。

IRB審議内容

1. 開催日時：西暦2016年12月22日(木) 12:00～

2. 場所：医療法人社団 五稜会病院 医局

出席者：坂岡 ウメ子、長谷川 聡、吉野 賀寿美、古瀬 諒二、田中 倉一、泉 純一、阿部 重子

3. 審議内容

1. 大塚製薬株式会社より依頼(治験実施施設：五稜会病院)

* 「アルコール依存症患者におけるナルメフェンの第Ⅲ相試験(339-14-001)の継続長期投与試験(長期投与試験)【339-14-002】」

審議事項：安全性情報

2. 大日本住友製薬株式会社より依頼(治験実施施設：五稜会病院、雁の巣病院)

* 「SM-13496の双極Ⅰ型障害の大うつ病エピソードの患者を対象としたランダム化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験【D1002001】」

* 「SM-13496の双極Ⅰ型障害患者を対象とした長期投与試験【D1002002】」

(治験実施施設：五稜会病院)

* 「SM-13496の急性憎悪期の統合失調症患者を対象としたプラセボ対照二重盲検並行群間比較による検証的試験【D1001066】」

* 「SM-13496の統合失調症患者を対象とした非盲検継続投与試験【D1001067】」

審議事項：安全性情報

3. Meiji Seika ファルマ株式会社より依頼(治験実施施設：五稜会病院)

* 「ME2112の急性憎悪期統合失調症患者を対象としたプラセボ対照二重盲検比較による検証的試験(第Ⅲ相)【ME2112-2】」

* 「ME2112の統合失調症患者を対象とした長期投与試験(第Ⅲ相)【ME2112-3】」

審議事項：安全性情報

4. 第一三共株式会社より依頼

(治験実施施設：札幌佐藤病院、手稲脳神経外科クリニック)

* 「アルツハイマー型認知症患者を対象としたSUN Y7017(メマンチン塩酸塩)の第Ⅲ相試験【SUNY7017-A-J301】」

審議事項：安全性情報

5. 塩野義製薬株式会社より依頼

* 「S-877503の成人注意欠如・多動症患者を対象とした第3相臨床試験【1522A3132】」

* 「S-877503の成人注意欠如・多動症患者を対象とした第3相臨床試験(継続長期投与試験)【1523A3133】」

(治験実施施設：五稜会病院、サッポロファクトリーメンタルクリニック、宇都宮東口ストレスクリニック、森林公園メンタルクリニック、新さっぽろメンタルクリニック、桑園メンタルクリニック、北大通こころのクリニック)

審議事項：安全性情報、治験薬概要書日本語版改訂